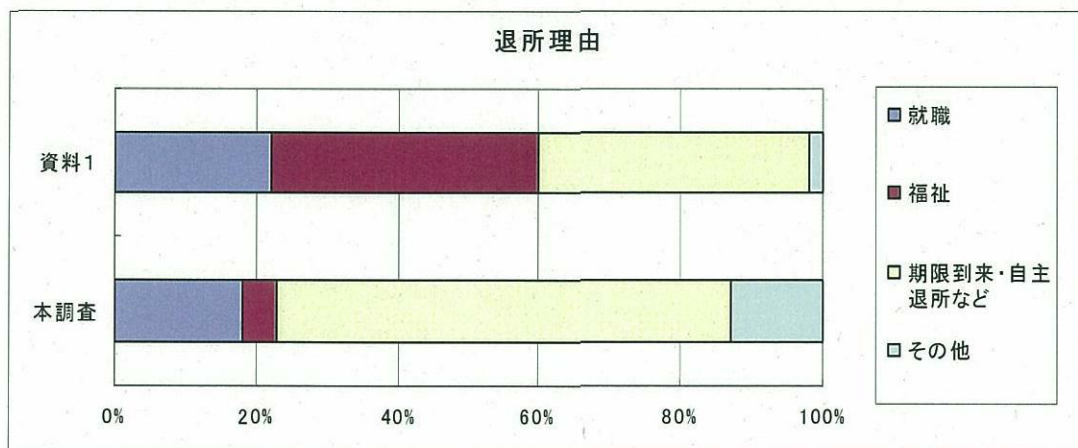


### 3. 自立支援センター経験者の属性—誰が路上に戻ったか—

自立支援センターの利用経験者は9.1% (n=184) であり、路上生活者の約1割程度が「再路上者」である。先に述べたように、このグループの平均年齢は54.5歳であった。自立支援センターの利用者の平均年齢が51.6歳(資料1)であり、比較可能かどうかは検討が必要であるが、利用者一般よりも若干年齢の高い層が路上に戻ってきている可能性がある。

路上に戻った理由は、センターから直接(「期限到来」23.5%、「規則違反・自主退所・無断退所」40.4%、計64%)が過半数を占めており、就労を通じたあとに路上に戻ったのは18%(「会社の寮・住み込み」8.7%、「アパート」9.3%)、生活保護を通して路上に戻ったのは5%である(表26-2、報告書p.56)。資料1によると、自立支援センターからの退所理由は、期限到来・自主退所・規則違反は38.0%、就労21.9%、福祉37.3%となっており、期限到来・自主退所・規則違反の理由により、センターから直接路上に戻った層の割合が約4割となっている。就労や福祉にいったん繋がった場合は、その後路上に戻るとは限らないので、この比率は退所者調査(資料1)よりも路上調査(本調査)のほうが大きいはずであるが、本調査では6割強と、ほぼ整合性がとれる結果となっている。就職に比べ、福祉を通じた退所者の割合が退所時(資料1)に比べ減少していることは、福祉による退所のほうが後々に路上生活に戻らない可能性が高いことを示している。一方で、就職による退所者の割合は、ほぼ変わっておらず、就職しても路上に戻っている人が多いことが示唆されているが、これは、退所者を全てフォローする調査をしないとはっきりとわからない。



資料1 = 「平成18年度ホームレス対策事業の運営状況調査」

一方で、退所から路上に戻るまでの期間をみると、退所後即路上に戻った(1週間以内)のは全退所者の27%であり、退所理由が自主・無断・規則違反が64%であるにもかかわらず、必ずしもこれらのケースがすべて即路上に戻ったわけではない。